是非ご覧ください。

ここで紹介した内容は、ケーブルテレビCCNの岐阜商工会議所広報番組「ヒットの兆し」にて毎日放映します(5月)。

岐阜のまちで「はじめたい人」を支えていきたい

ミユキデザイン一級建築士事務所
〒500-8182
岐阜市美殿町17 まちでつくるビル4F
大前貴裕さん
http://miyukidesign.com/
Tel.058-264-3202
Fax.058-203-0962

かつては「岐阜といえば―」の賑わいの代名詞でもあった柳ケ瀬商店街を中心とする岐阜市の商店街の多くが、他の都市に漏れず再生活動を必要としています。

その活性化の担い手である「プロデューサー」として、2011年から3年間取り組んだ、大前貴裕さん。

彼の目に映る岐阜のまち、そしてこれからの姿とは…。

大前さんが、一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社が募集した「岐阜市商店街活性化プロデューサー」に手を挙げたのが2011年。「おもしろそうだと思った」と、その動機を振り返ります。

岐阜生まれの名古屋育ち。25歳の頃、建築・設計士として帰岐。それから約10年が過ぎた頃、この地に本気で根付くには「ただ建物を1つずつ造っていくだけいいのか…」と、新たな展開を模索しだしました。そのひとつとして関わってみたかったのが「まちづくり」。募集を知り、迷わず応募しました。

岐阜市商店街活性化プロデューサー　1年目
主に、柳ケ瀬商店街等のイベントでの賑わい創出に関わる

そこで感じたのが、商店主たちの間には空洞化の根本にある空き店舗対策の将来ビジョンに「かなりの温度差」があることでした。

公共空間をなんとかするだけでは、まちは変わらない。建物の所有者の想いが変わらなければ…

2年目　空き店舗対策に徹底的に取り組む

大前さんがプロデューサーを務めていた岐阜市にぎわいまち公社では、定期的に新たにお店を持ちたい人たちを対象に、空店舗を巡るツアーを開催しています。

そのツアーで強く感じたことが「借りたい人と貸したい人のニーズの合った空き店舗がない」ということでした。

借りたい人の多くは、チャレンジできるほどの小さなスペースを探している。大きなスペースを分割して貸してくれる所有者がいれば…。ならば、自分がその仲介役となり、分割再生できる空き店舗を探そう。

そのなかで、ひとつの出会いがありました。美殿町の空きビルの所有者　鷲見浩一さん。その想いの向きは、「まちの良さを残し新しい人を呼び込みたい。まちと一緒に生きていきたい」

大前さんと同じ方向でした。

空きビル再生に向けて動き出した、3年目「人あつめ」

空店舗に入居希望の多くは起業を志す人。なおかつ何かを「つくる」ことを業としたい若者が多く、大前さんはこの美殿町の空きビルには「つくって、売る」ことのできる入居者を中心に募集しました。

売るだけ、つくるだけ、これからの時代はそういう商いではないと思います。
「人」が関わるまちだからこそ
「つくる人＝売る人＝人が交流できる場」に。

大前さんは、これがあたらしいまちづくりの付加価値、それをまちが支えていくのが、これからのまちづくりの姿と考えます。

2013年4月、美殿町の空きビルは「まちでつくるビル」として稼働しはじめ、今年満室となりました。

そして、美殿町商店街は経済産業省主催の「がんばる商店街30選」に、全国1万以上ある商店街の中から「若手クリエーターの新規創業に商店街内の空きビル（まちでつくるビル）を賃貸し、共に商店街活性化を進めていく事業」として高く評価され、選定されました。

ビルが再生されてから
「美殿町に、昼も夜も笑い声がいっぱい聞こえるんですよ。ほら今も」
「まちでつくるビル」所有者の鷲見浩一さん(左)

人が集まればまちが変わっていきます。

人が集まるためのマーケットをどう作っていくか、そこにはどういう人が集まってくるのか…。大前さんが考える、あたらしいまちづくりの形は、常にそこにあります。

まちにかかわって4年目の、今

起業したいと思う人の多くが「何か人と違うことをやりたい、個性を発揮したい…」そんな志を抱いています。

これからは、そんな想いをもっと気軽に聞いてあげたい。収支計画、ビジョンなどをちゃんと作れて形にできるような環境を作ってあげたいです。

3年間、岐阜市商店街活性化プロデューサーを務め、人と人とのつながりの大切さを肌で感じることができたからこその、大前さんの想いです。

――岐阜のよさとは？

たとえば…
会いたいと思った人に、知り合いの知り合いをたどるくらいで、すぐ会える。
程よい大きさの小さなかたちにまとまっている、それが岐阜まちのよさです。

それが「心地いい」という大前さん。

このまちで、何かをはじめる人たちの、点が線に、線が円に…と、少しずつ繋がりはじめました。